

七月場所、琴国関は十両十四枚目で、一勝十四敗と大きく負け越し、九月場所は幕下十三枚目のスタートとなりました。テレビで応援しながらも、足が出ず本来の相撲とかけ離れた相撲で心配でした。腰痛(圧迫骨折)で七月場所前からまったく稽古ができない状態という情報は入っていました。黒星が重なる中、琴国関本人は「腰の方は大丈夫です！」「明日から気持ち切り替えて、がむしやりに頑張ります。」「来場所につながるよう頑張ります。」「と十五日間決して弱音はかず前向きな答えが返ってきていました。

千秋楽祝賀会に、後援会より広瀬副会長、湯浅、宮本の3名が参加しました。その席で、佐渡ヶ嶽親方より琴国関が圧迫骨折をしていたことを聞き驚いたしです。稽古もできない体で、激痛に耐え、黒星の続く中、真庭市の化粧回しをつけ、土俵に上がり続けた琴国関の心情を思うと何とも言えず頭が下がります。応援してくれる皆さんの為に……という一途な思いだったのだと思います。七月場所が終わり後援会の役員・世話人が集まった席で琴国関のことを心配されていた廣岡後援会長も「腰がそんなに悪かったのか！皆に教えてあげないといけんで！皆さん応援しようるんだから……」と言われました。琴国が関取でなくなっても引退するまで応援するぞと改めて出席した皆さんで確認致しました。



村上先生が、琴国関に近況を訪ねたメールを紹介します。

村上「8月も下旬となり、秋場所の番付発表も近づきました。巡業を休んで治療に専念すると聞いていましたが、腰の具合はどうか？圧迫骨折というと、素人考えではとても相撲なんて取れる状況でもなく、完治には時間がかかる気がします。

9月始めには、『琴国後援会便り』も送ろうと思っていますので、近況などメッセージをいただけたらと思っています。苦しい日々だと思いますが、今一度再起を果たしてくれることを願って、陰ながらみんなで応援していますので頑張ってください。」

琴国「腰の方も良くなっています！このままでは自分でも納得いらないし、応援してくださっている方にも申し訳ないので、また戻れるように頑張ります！

また、自分にできることは協力したいので、いつでも言ってください。」 H21. 8. 26

九月場所は、幕下十三枚目から再スタート

役員世話人懇親会が8月2日「縁」にて開催されました。病氣療養中でした廣岡会長をはじめ、広瀬副会長、牧原副会長、鈴木顧問ら琴国関を応援する20名が集まりました。廣岡会長の挨拶、千秋楽祝賀会に参加した広瀬副会長より祝賀会の様子、と琴国関の腰の状態(親方のお話)のお話があり、鈴木顧問の乾杯で懇親会は始まりました。世代を超えて、琴国を応援する皆さんが社会の立場・役職を超えての懇親会……この後援会があってこうして話すことができるんだと思います。すばらしい会です。これも何かの縁ですね！。

